

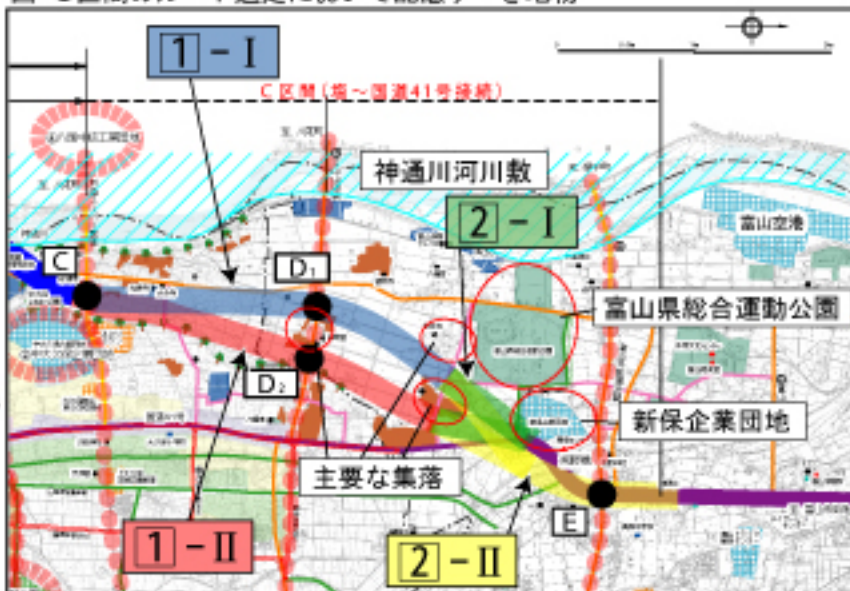
C区間における事業者ルート帯案の選定について

C区間のルート帯に関しては、右図に示す事項について配慮することとしました。

7ページでお示したルート帯について、各々の特性を比較すると、以下のようになります。



図 C区間のルート選定において配慮すべき地物



① 「ルート帯の通過位置」によるパターンの比較

評価項目		事業者の評価	比較模式図 (高い位置にある方が、より優れていると判断しています)
分類	細目		
広域的な利用	走りやすさ・安全性	道路延長が短く、直線的な①-Iが望ましい。	
まちづくり支援	将来的な土地利用	①-Iは段丘面の中央を通過するため分断要素となる。 ①-IIは、はば(崖線緑地)との間に残地が発生する。	
身近な生活環境	家屋の移転	家屋移転はどちらの案も大きな差はみられない。	
	営農への影響	どちらの案も農地の斜め分断が生じる。	
	自然環境、景観への配慮	どちらの案も詳細な調査が今後必要となる。 ※はば(崖線緑地)等の自然調査が必要	
経済性	経済性	①-Iは直線的で延長がやや短い、施工費に大きな差はない。(①-Iは約90億円、①-IIは約85億円。)	
これまでの住民説明会等で出された意見		住民の皆さんから、できる限りはば(崖線緑地)へ近づけてほしいという意見がある。	

② 「国道41号(現道)との接続」によるパターンの比較

評価項目		事業者の評価	比較模式図 (高い位置にある方が、より優れていると判断しています)
分類	細目		
広域的な利用	走りやすさ・安全性	②-Iは信号交差点となり、②-IIに比べ走行性は低い。一方、②-IIは立体構造であり走行性・安全性も高い。	
施工性・経済性	施工のしやすさ	どちらの案も国道41号(現道)とつながる部分において施工上の工夫が必要となるが、どちらも大きな差はない。	
	経済性	②-IIは立体構造となるため、施工費は②-Iに比べ約3倍かかる。(②-Iが約25億円、②-IIが約90億円。)	